

美しくつかしい、日本をのせて。

# Cradle

【クレードル】出羽庄内地域文化情報誌

7

2013 July/August  
TAKE FREE  
NO.18

特集  
ぐるっと鳥海山  
庄内憧憬  
鬼武みゆき 作曲家・ピアニスト

Cradle 7

美しくつかしい、日本をのせて。  
【クレードル】出羽庄内地域文化情報誌

2013 July/August  
平成25年7月1日発行（隔月奇数月発行）第3巻6号（通巻18号）

発行／Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15 株式会社 出羽庄内地域デザイン 電話0235(64) 0888  
制作／Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-3 コミュニティセンター2階 電話0234(41) 0012

FIDEA GROUP



鶴岡市／月山 鳥海山を望む弥陀ヶ原

爽やかな夏を感じる  
標高1,400mの別天地

 庄内銀行



毎年行きたくなる、懐かしい、ただいるだけで心が豊かに満たされる「心のふるさと・庄内」

目の前に広がる日本海。長く続く砂浜。遠くに見える山々には霧がかかって、まるで墨絵のよう。湯野浜海岸にたたずんでいると、自然と大きく深呼吸している私があります。

ゆったり穏やかで、癒やされる庄内。2008年、演奏で初めて鶴岡を訪れて以来、鶴岡まちなかキネマ、玉川寺、花門、鶴岡市中央公民館、湯野浜小学校など、気がつくとも必ず毎年訪れている、私にとって特別な場所になりました。初めて庄内の地に降り立った時、なぜか「故郷」のような、懐かしい感覚になったことを今でも覚えています。それもそのはず。神秘の出羽三山や美しい雄姿の鳥海山、庄内平野に広がるのどかな田園風景といい、すべてが雄大で、また、城下町鶴岡、湊町酒田、それぞれの歴史を感じさせる風情ある街並みや、お米をはじめ四季折々の豊

富な食材、海の幸、山の幸なんでも美味しく。地元の方々からは、いつも真心とさりげない心遣いが伝わってくる。そんな、素晴らしい日本人独特の文化が根付く庄内だからこそなのでしょう。

ところで、私は、東京理科大学で数学を専攻、システムエンジニアとして企業に就職という異色なプロフィールから、「なぜ数学から音楽へ？」とよく聞かれます。ちよつぱり遠回りはしましたが、音楽だけではない、すべてのアーティストに通用する自分だけの感覚を探す「自分探し」の旅をずっと続けていたんです。27歳の時、やっと「今ならできる」と感じて、プロの音楽家へ転向しました。音楽は4歳からスタート、萩の大自然や、画家の伯父の影響を多大に受け、いつも「ものづくり」に夢中になっていたことが、私の曲作りの原点になっています。なぜ、数学

## 日本人独特の文化が根づく庄内 鬼武みゆき



湯野浜海岸

だったのかって…ゲームのように、自由な発想で解いていけることが楽しかったんです！  
人生は面白い。ここぞというタイミングで、大切な素晴らしい出逢いがあります。たくさんの方々のおかげで今の私がありますが、「さかたの雛あそび」や「さかたの花うさぎ」を作られた辻村寿三郎さんもその一人。人生のターニングポイントで、寿三郎さんの人形から言葉が聞こえてきたことで、曲が生まれる決定的な瞬間の感覚へと繋がりました。場所も然り。毎年行きたくなる、懐かしい、ただいるだけで、心が豊かに満たされる「心のふるさと・庄内」との出逢いに心から感謝の気持ちを込めて。

おにたけ・みゆき／作曲家・ピアニスト。山口県・萩生まれ、横浜育ち。東京理科大学理学部数学科卒業の異色の音楽家として話題になる。これまで4枚のオリジナルアルバムを発表。現代を生きる私たちに元氣と安らぎを与えてくれるアーティストとして幅広い世代から支持を得ている。小栗康平監督の映画『埋もれ木』では挿入歌を作曲。昨年よりウェブ配信しているショートムービー『1 minute piece "Happiness is..." (私の幸せ)』を写真家の森日出夫氏と共同制作し、好評を博している。



# 特集 ぐるぐるごと 鳥海山

毎年、庄内に農作業の始まりを告げる  
鳥海山の「種まき爺さん」。  
残雪の形がつくるその爺さんが、  
秋田側にも現れるって、知っていますか!?  
山形と秋田の県境にそひえ立ち、  
秀麗な姿と壮大な自然で  
私たちを魅了する出羽富士鳥海山  
その魅力を、秋田側も含めて  
ぐるりとご紹介します。



鳥海山の素晴らしさは、眺め見るその山容と山に入つてこそ出会える高山植物の豊かさにあります。お花畑が迎えてくれる花盛りの夏がやってきました。

眺めと花の美しい山

# 登山者を癒やす花の山、鳥海

案内人 芝田肇さん 鳥海山山岳ガイド

「山道で行き交う人からはよく『花が多い山ですね』って言われるの。四季の楽しみがある山だよ」と話すのは『鳥海山に咲く植物』の著者、芝田肇さん。夏に花盛りを迎える鳥海山、登山道でも人気の高い「湯の台口」「吹浦口」を中心に、その植生についてお話をうかがいました。

湯の台口の花の名所は、「滝の小屋」から上に延びる「八丁坂」。トウゲブキ、クルマユリと色とりどりの花が群生しています。また「河原宿小屋」の上に広がる大雪渓を含む「心字雪渓」と花との競演も見どころの一つ。「8月頃雪渓がとけ出すと、その傍らさ春の花が咲くやの。すると遅れた花時を急ぐみたいに、ニッコウキスゲ、ヒナザクラと、秋まで次々にいろいろな花が見られんな」。鳥



1. チョウカイザミ (7~9月) 高さ1m程にもなるものは河原宿より上の日当たりの良い草地で見られる。
2. チョウカイフスマ (7~9月) 鳥海山の固有種。
3. チングルマ (6~9月) 雪田や砂礫に群生。
4. イワブクロ (6~9月) 鳥海山が南限。
5. アズマギク (5~7月) 鳥海山では希少。長坂口から鳥海湖を周るルートで見つかるかも。
6. イワウメ (7~8月) 行者岳~七高山への岩場などに群落。
7. ミヤマウスユキソウ (7~8月) 山形・秋田の山に多い。
8. ニッコウキスゲ (6~8月) 朝咲いて夕方にはしぼむ一日花。
9. ツガザクラ (7~8月) 外輪の岩の割れ目などで見られる。

P8~9写真提供=芝田肇



海山は独立峰のため本来、風が強く乾燥しやすい環境ですが、植物がとて豊富なのは、水環境の豊かさがあるためです。多雨多雪で豊富な地下水、夏が終わる頃まで植物に水を与える雪渓、そして、登山中に視界に広がるガス(濃霧)も植物にとっては霧吹きのような役割を果たしています。こうした環境下から、吹浦口では、標高1300m~1800mぐらいまで広範囲に途切れることなく「お花畑」が続きます。コース上では「清水大神」から「とよ」を経て「御田ヶ原分岐」を過ぎるまでのあたりです。他の山々では、お花畑は水のある谷底などに見られませんが、鳥海山では強風にあたる稜線部にも花が咲き、さらには乾性と湿性の植物が混生し、本来なら淘汰されてしまう植物がいまだに見られるなど、本州の中でも特に珍しい光景が見られます。

山頂までは両コースとも、岩場が続く険しい道のり。外輪山をつたい歩き、ようやく到達点の、七高山、新山山頂へ。頂で迎えてくれるのが固有種の「チョウカイフスマ」です。作家の田中澄江さんは『花の百名山』で鳥海山についてこう書いています。「私は、山

形の人たちが、チョウカイフスマを、鳥海山の花として、誇りやかに語る気持ちをうれいしと思う。花の鳥海山。多くの人々が足しげく導かれるのは、彩りと変化に富んだ山の四季に出会いたいという一心からかもしれません。「この景色を見ることができたっていう思いが、何回でも山に登らせんやの。鳥海山の自然にはすばらしいことも厳しいことも、大切なことを教わって育ててもらったの」。

## Gurutto!

### お立ち寄りMEMO



#### 標高1000mの宿 大平山荘

山形—鳥海山—秋田を結ぶ観光道路「鳥海ブルーライン」。山形県側の道路のほぼ中間にある山荘は登山の拠点に最適! 眼下に広がる光景は息をのむ美しさです。宿泊料は、大人1泊2食付6630円~  
 10月下旬~4月下旬  
 山形県遊佐町吹浦字鳥海山1(鳥海ブルーライン四合目)  
 ☎090-2607-2326

ケビンやツリーハウス、溪流釣り場やグラウンドゴルフ場などを有する広大なレジャー施設。標高550mの雄大な景色とブナの森に包まれた中での年間イベントは多くの人で賑わいます。関連商品の「鳥海高原飲むヨーグルト」は、とろ〜り濃厚でファンも多数。旅行村や市内の産直などで販売中。  
 ☎0234-64-4111 (8:30~17:30)

#### 鳥海高原家族旅行村





Gurutto!

お立ち寄りMEMO



遊佐産の魚介や野菜の直売所から、海鮮丼が人気の食堂、ファストフード、ラーメン店、パン屋さんまで、見どころ食べごろいっぱい道の駅。周辺には海水浴場や温泉施設、キャンプ場などもあり。鳥海山までドライブへの道すがら、ふらっと立ち寄ってみては？  
園遊佐町菅里菅野308-1  
☎0234-71-7222

四季の森しらい自然館

胴腹滝や高瀬峡、一・二ノ滝に近い、緑と水にあふれた交流体験型宿泊施設。高台から眺める海までの光景はまさに壮観。登山やハイキング、オリエンテーリングやセミナー、さまざまな合宿まで多目的に利用できる施設です(宿泊は2名〜)。  
予約受付時間:9:00~17:00  
園遊佐町白井新田字見晴野21  
☎0234-72-2069

道の駅鳥海 ふらっと



「滝、川、池、海、自噴井。遊佐町はほかの地域と比べて、湧水スポットが多く、人目に付きやすいところにあるのが特徴です」ということで、今回は遊佐町在住の畠中裕之さんから、鳥海山の地形をもとに、豊かな湧水の源について教えていただきました。

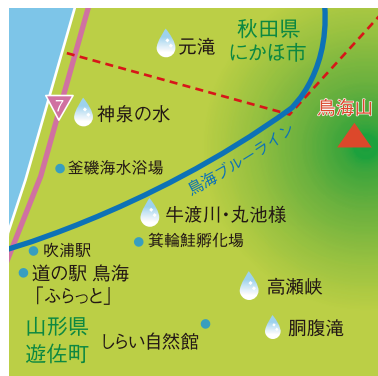
鳥海山や富士山のような美しい円すい型は、噴火を繰り返してきた「成層火山」らしい特徴の一つです。火山の恩恵はこうした地形だけでなく、火山灰の長年の風化変質による肥沃な土壌、そして湧水をもたらしました。

火山活動によって噴出した溶岩流はやがて固まり、溶岩層となります。層と層の間を満たしているのは火山礫。粒が粗い礫は透水性が高く、山に降った雨や雪はその地層に浸透し、はるか長い年月をかけてろ過されながら地表に湧き出します。これが火山が生んだ湧水のメカニズムです。「火山地質というだけでは湧水はできません。鳥海山は降水量が圧倒的に多いことが、豊富な湧水の源泉になっています」。鳥海山の頂上付近の降水量は、じつに平地の約2〜3倍と推定され、その年間量は屋久島を超えるといわれています。

「湧水は私たちに『命の水』を体感させてくれます。自然と生活の接点を感じる場所なんですよ。鳥海山と日本海の光景はまるで造化の妙。自然循環の縮図のような理想郷といえるでしょう。」

1.湧水の池「丸池様」。ブルーの水面下には倒木が朽ちることなく横たわる。2.「牛渡川(うしわたりがわ)」は90%が湧水。清流を好む梅花藻(6~7月)が見られる。鮭が遡上する川としても有名。3.「神泉(かみこ)の水」。海沿いの女鹿地域では湧水を集落の共同用水にしてきた。まさに命の水。4.切り立った崖から湧き出す様が滝のような「元滝伏流水」(秋田県にかほ市)。5.庄内浜の「釜磯(かまいそ)海岸」では、砂浜に湧き出る湧水が見られる。この伏流水が海中に湧き出して、美味しい岩ガキを育てる。

P10~11写真提供=畠中裕之



脈々と湧き出す 生命の源泉

—案内人— 畠中裕之さん 鳥海山山岳ガイド

の獅子ヶが鼻湿原の水域は強い酸性です。これは、秋田の山体崩壊が大規模だったため、地下深部が火山性ガスの影響を受けていると考えられます。山形側でも崩壊はありましたが歴史がかなり古く、規模も小さかったようです。その時、土砂が崩れてできた扇端部分が、ちょうど胴腹滝がある現在の白井新田や藤井集落のあたり。そのためこの界限から平野にかけての広

水筒いらず 湧水の郷

独立峰の秀麗な姿から「出羽富士」といわれる鳥海山。その姿はただの美しさだけでなく「水」をもたらす由縁をも表しているのです。

その理由を良く表しているのが、海拔0mから山頂まで一気に立ち上がる鳥海山の立地。海を渡ってくる湿った風は、隔てるものなく直接山肌にあたり、多くの雨や雪となつて降り注ぎます。

また火山地質は、山形側と秋田側とで湧水の水質の違いを生み出しました。「遊佐の水はまるやかで飲みやすい軟水ですが、秋田県



秋田の人たちが親しむ鳥海山は、私たちの知る姿とはかなり異なる印象です。同時に麓の森や裾野の景色も、山形とはちよつと違う。その魅力を探ってみました。

不思議の森  
あるく!

# 中島台、獅子ヶ鼻湿原、 神秘なる水の森へ

—案内人— 伊藤良孝さん にかほ市観光案内人



秋田との県境を越え、国道7号を進むと、水田に小さな山が点々とある景色が現れます。ここはかつて数多くの島が海に浮かび、「東の松島、西の象潟」と称された景勝地。1804年の象潟地震で海底が隆起し、現在の姿となりましたが、地質的な珍しさから国の天然記念物に指定されています。「こ象潟の『流れ山』と呼ばれる小

山は、2500年前に起きた鳥海山の山体崩壊で作られたものなんですよ」と話すのは、象潟町在住の伊藤良孝さん。紀元前466年の山崩れは山頂から北側の山を大きく削り、東京ドーム2800杯分の岩屑を流したといわれています。「その時の岩屑流を含め、鳥海山の噴火で溶岩が流れたのはだいたい秋田側です。だから流れ山をはじめ、秋田にはさまざまな地形

や景観ができました。獅子ヶ鼻湿原もそのひとつですね。」

鳥海山麓の標高500mに位置する獅子ヶ鼻湿原は、26haの中島台自然休養林内にあり、1周6km弱の遊歩道が整備されています。散策ポイントを教えてもらいました。「まずひとつは『あがりこ』です。これは昔の人がブナの幹を雪の上から何度も伐採したためにできた奇形ブナで、炭焼窯跡と共に、ここが人と共存する里山だったことを伝えます。あがりこ自体は全国各地にあります。あがりこ自体で群生している山は珍しいので、森の様相が独特ですよ。」

獅子ヶ鼻湿原はあがりこの森の奥。最大の見所は「出つぼ」と「鳥海マリモ」で、どちらもあちこちから湧き出す伏流水による産物です。「出つぼは湧水があふれ出るスポットで、透明度の高さから『平成の水百選』に選ばれています。国の天然記念物の鳥海マリモは、大変珍しい二種類のコケの混生です。なぜこのコケがここにあるかはわかりませんが、死に絶えない理由は予測できます。よそと違ってここは、湧水が強い酸性だから、コケを食べるような虫や魚が住めないんですね」。なぜこの地の湧



水だけ強い酸性なのか。それは、かつての山体崩壊がかなり地中深くにも影響したことで、マグマ付近を通る水脈が生まれ、そこを通った水がこの湿原に湧き出ていると考えられるからです。「森を流れる赤川に魚が住んでいないのも同じ理由です。でもおかげで鳥海マリモも出つぼもあるわけです。不思議の森」と伊藤さん。不思議の森と神秘なる水の存在は、鳥海山の奥深さを改めて教えてください。

1. 姿がロウソク立てを思わせる「燭台ブナ」。
2. 「炭焼窯跡」。この森では江戸後期から昭和30年代まで炭焼きが行われていました。
3. 「あがりこ大王」は幹周り8m弱、樹齢300年。
4. 獅子ヶ鼻湿原の湧水スポット「出つぼ」。
5. 「鳥海マリモ」は日本唯一のヒラウロコケと、地中海沿岸で主に発見される希少なハンデルソロイゴケの混生。近年は積み重なった枯れ葉で見えにくくなっています。
6. 中島台の森を流れる導水路(右)と「へなそ川」の合流点。導水路の方だけ岩にコケがなく、水の特異性を実感できます。

## Gurutto!

### お立ち寄りMEMO

や由利牛陶板焼定食など地場産メニューがズラリ。11:00~16:00、17:00~20:30  
**【3階】** 宴会場。プランの詳細はHP「ねむの丘」へ。  
**【4階】** 「展望天然温泉」。大浴場、あわ風呂、サウナあり。9:00~21:00、90分350円  
**【6階】** 「展望塔」。ここからの風景写真も展示しています。  
 函秋田県にかほ市象潟町字大塩越73-1 ☎0184-32-5588



### 道の駅象潟 ねむの丘

中島台の森から海に向かって車で約20分。敷地2万坪、東北最大級の道の駅は、食事処や温泉もあって象潟観光の拠点にピッタリ。  
 施設案内  
**【1階】** 秋田県のおみやげスポット。農林水産物の直売所ではラーメンなどの軽食も食べられます。9:00~19:00  
**【2階】** レストラン「眺海」。海鮮丼





4

Gurutto!



### 土田牧場

仁賀保高原一番の人気スポット。昭和62年に入植した土田家が150haの牧草地でジャージー牛約200頭を飼育しています。直売店「ミルクハウス」では搾りたての牛乳やソフトクリーム、やきやきポークなどを販売。園秋田県にかほ市馬場字冬師山4-6 園9:00~17:00 園1月~2月 園0184-36-2348

### お立ち寄りMEMO

仁賀保高原から車で約20分。花立牧場公園は、花立堤を中心にコテージや宿泊施設、ファミリーゾーン、牧場工房などが充実しているレジャー施設です。「星の美しく見える高原」の全国第2位!近くには猿倉温泉郷もあります。園秋田県由利本荘市矢島町城内字花立96 園(株)鳥海高原ユースパーク 園0184-55-2929

### 鳥海高原花立牧場公園



「案内人」横山隆一さん にかほ市観光案内人

# 空近くの別天地で のどかにレジャー気分

高原の風に  
吹かれる

「鳥海山を挟んでこんな景色が広がっているとは!」そんなセリフが思わず飛び出しそうになる仁賀保高原を、ある晴れた日に案内してもらいました。

にかほ市在住の横山隆一さんにお話を伺いました。「仁賀保高原は蝶とトンボの宝庫です。なぜかというところは霧や雨、雪など水が大変豊富で、湖沼も50ほどあります。高原の麓には沼や湿原、雑木林などもありますね。」  
小さな生き物が生息するのに適した仁賀保高原は、一方で人が住むには厳しく、昔から家畜の餌などを採る草刈場として活用されて

象潟町から車で20分ほど山道をいくと突如、木々の間から風車が顔を出し、広大な草原地帯となります。ここは標高500mの仁賀保高原。視界を遮るもののないなだらかな丘陵に白い風車が15基並び、鳥海山がそびえる風景は、まるで日本とは思えない景色です。時々地域の子どもたちと高原で植物や生き物を観察しているという、



3



2



写真提供=横山隆一

1.仁賀保高原から望むにかほ市東部。水田に点々と「流れ山」が。2.仁賀保高原から由利高原に向かう途中の田園風景。よくみるとこちらにも「流れ山」。3.南由利原青少年家族旅行村と花立牧場公園の中間にある広大な菜の花畑。5月~6月の開花時期にはたくさんのお花見客が訪れます。4.鳥海山の北麓に位置する仁賀保高原では、南に鳥海山、西に日本海と象潟の大パノラマが望めます。2時間430円の自転車レンタルは「ひばり荘」にて。湖沼では枯れた草が集まってできた「浮き島」を発見できるかも。

には「南由利原高原青少年旅行村」、鳥海高原には「花立牧場公園」などがあり、鳥海山北麓に広がる高原一体が心地よいレジャーエリアとなっています。横山さんは語ります。「よく皆さんには、海岸から頂上まで約16kmの鳥海山には、2000m級の山、高原、湖沼、森、川、平野、海岸と、7つの自然があると話しています。こんなに恵まれた地域で暮らせる僕たちは、幸せだと思いますね。」

現在、高原には約7・5kmのサイクリングロードがあり、湖沼や風車の間を散策することが出来ます。キャンプ場や運動広場、展望台のある「ひばり荘」も整備され、人気の「土田牧場」と相まって、休日には家族連れなどが多く訪れます。さらに東に連なる由利高原

流れ山はその痕跡です。  
紀元前466年、鳥海山からの岩屑流は仁賀保高原にぶつかって二手に分かれました。ひとつは海側へと流れ、象潟の「九十九島」や中島台の森を形成。もう片方は仁賀保高原より標高の低い由利高原へ。しかしその勢いはとまらず、岩屑流は仁賀保高原をも乗り越えてさらに北へ。高原に残る湖沼や

きました。民謡「秋田草刈唄」の発祥地ともいわれています。昭和30年代から秋田県による酪農開拓がスタート。一時は入植者で栄えますが、環境の厳しさからやはり次々に撤退していきます。そんな仁賀保高原で昭和55年に歴史的な発見がありました。「湖沼のひとつから掘り出された『埋もれ木』を調べたら、2500年前の鳥海山の山体崩壊が、噴火ではなく巨大な山崩れだったと、この時初めて判明したんです。」





庄内写真季行 13 鳥海山

ここでは水を通して、自然との繋がりを  
確かめることができる。  
自然からの贈り物に感謝して。

湧水の豊かな鳥海山。その源は雪の  
多さにある。雪の多さはどこから来る  
のかといえば、日本海を北上する対馬  
暖流にあるといえる。

たっぷり湿度を含んだ雪は、冬の  
季節風で鳥海山の南東面に運ばれ、い

くつもの雪渓を生み出す。そして、山  
麓を取り巻くブナの帯が、緑のダムと  
なり、水を溜め、地下水となって湧水  
を生み出す。人は万物の生命を育てる  
水神として崇め、古来、自然からの贈  
り物を大切にしてきた。





## 富樫葉子さんの 吹きガラス

エアリーなフォルムと流れるような白のライン  
何かのオブジェ? それとも新種の貝殻?  
いいえ、これはガラスの花器  
富樫葉子さんの吹きガラス

「ガラス工芸」と聞いて、まっさきにイメージするのは、熱く溶けたガラスをパイプに巻きつけて、空中で息を吹き込む姿ではなからうか。

吹きガラスの技法は、紀元前1世紀頃に地中海東岸のガラス職人によって開発された。ガラス界の革命ともいえるこの発見によって、宝石同然だったガラスは実用品となり、ガラスは暮らしになくてはならないものへ。でもどんなに時代が経って、ハイテクな大量生産技術が登場しても、古代から変わらぬ吹きガラスの技法に挑み続け、そこから生まれるカタチを慈しむ人たちがいる。

鶴岡市出身の富樫葉子さんは、木々に囲まれ、鳥のさえずりや川のせせらぎが響く神奈川県足柄で、パートナーの宮尾洋輔さんとガラス工房を構えている。美大で絵画を学び、ガラスの発色に引かれてこの世界に入ったという富樫さんが、さまざまな技法を身につけた今、新たにはじめたのがこの吹きガラスによる白のシリーズ。色を求めていた彼女が色を捨てた、新境地だ。

ふうつと息を吹き込み、まるく膨らんだガラスに切り込みを。パイプをグルグル回し、下に向け「できるだけガラスがなりたないように」自由に動かすと、やわらかいガラスはその遠心力と重力で思いがけない形になっていく。「花や植物の形には、螺旋のような規則正しい美しさもあれば、雨風などの影響を受けてしなやかに破綻する美しさもあります。身の回りのそんな自然の姿にインスピレーションを受けています」。そう語る富樫さんのガラスには、大好きなモノと戯れる少女のようなきめきと、開拓者の潔さが潜んでいる。



富樫葉子さんはこのシリーズ以外にも、絵付けガラスやベネチアンガラスなどさまざまなタイプを製作しています。見る位置を変えると模様が変わる「ガラスフォログラム」は、富樫さんが宮尾さんと考案した特殊な板ガラスシリーズ。詳しくはHP「宮富ガラス工房」をご覧ください。作品は鶴岡市本町の「ケトルワン」でも一部取り扱っています。

取り扱い店/ケトルワン ☎0235-24-1350  
問い合わせ/宮富ガラス工房 ☎0465-25-2157





# 千年の苔清水、 杉の香の南谷を歩く

松尾芭蕉が『おくのほそ道』で羽黒山を訪れたのは、陰暦六月三日から九日（新暦七月十九日から二十五日）。杉並木の木漏れ日が鮮やかなこの季節になると私は、芭蕉が歩いた古道をゆつくりと歩きながら、過ぎし旅人に思いを馳せてみたくなる。



羽黒山 二の坂

朝九時、すでに肌を刺すような日差しを背に、随神門をくぐり、まっすぐ継子坂を下ってゆく。樹齢数百を重ねた老杉はどれも根元が苔むし、清澄で凜とした空気があたりに漂う。石段を一段一段、下りるたび、空気が変わっていくのが分かる。ふと足元に目をやると、ウワバミソウ（ミズ）の小さな花が一面に咲き出そうとしていた。

涼しさやほの三日月の羽黒山 ―芭蕉  
祓川の上にかかる若楓が日差しに透け、その緑ばかりか水流さえ鮮やかに感じられる。川を渡る風が汗ばんだうなじをそつとなでた。神橋のたもとの注連掛桜の脇で、苔むす燈籠に芭蕉の姿を重ねる。  
門人曾良の日記には、芭蕉がここを通った時にはもう日が暮れていたとあり、きつ

と空には星が見えていたであろう。歩を進めると、樹齢一千有余年という爺杉が注連飾りをされて亭々と直立している。その先にひっそりと、しかし圧倒的な存在感で国宝五重塔がそびえる。

有り難や雪をかほらす南谷 ―芭蕉  
鳥や蛙の鳴き声が、谷間に響く。私はその場に時を忘れて佇んでいたほどだった。林泉の水面には灯のような河骨が立ち上がり、糸蜻蛉は命を紡ごうと飛んでいる。さほど大きくない水面だが、そこを過ぎる風の姿が見える。心地よい風をまとい、私の疲れは癒やされていた。

ここから先はひたすら登りの途。一の坂、二の坂と急な石階を踏みしめるように登っていく。杉並木といえば鬱蒼とした山気を想わせるが、羽黒山の木立は見上げると老杉、山楓、朴、ブナの葉が重なり、隙間からこぼれる樹光はまるで優しく、母の胎内にいるような錯覚に陥る。

河骨や日の斑こみあふ南谷 ―小菽  
俳句は、感受性の回路を開かせる。自然が奏でる音が、何を語っているのかを考えてみる。あやうく踏んでしまいそうな小さな足元の花さえ愛おしくなる。



羽黒山参道で見られる花 (2013.6.6撮影)



そして、雪深い冬。どの季節を歩いても何度も新たな発見に出会う。この急登を踏みながら、芭蕉の胸にはどんな思いが去来したのだろうか。南谷の香りを風を感じながら、芭蕉に思いを馳せていた。

写真・文 俵谷敦子「あべ小菽」(月刊俳誌「月の匣」同人)

Cradle 旅行倶楽部

## 芭蕉の句碑を訪ねる旅

― 俵谷敦子と巡る羽黒山

羽黒山随神門前集合(10時10分) ↓ 二の坂(10時40分) ↓ 南谷句碑(11時30分) ↓ 斎館にて昼食「羽黒精進料理」(12時30分) ↓ 三神合祭殿参拝 ↓ 俵谷敦子の講話(俳句を楽しむ(基礎編)) ↓ 羽黒山頂から路線バス(14時20分) ↓ いでは文化記念館前解散(14時35分)

日時 8月7日(水)  
場所 羽黒山随神門前(現地集合)  
募集人数 限定20名様(最少催行人員10名様)  
代金 5,400円(税込)  
(お一人様)  
「食事代」羽黒山頂からいでは文化記念館前までのバス代

申込締切 7月24日(水)  
※庄内までの交通費は含まれておりません。  
※現地より係員が案内いたします。  
※仙台、山形からのアクセス等、お気軽にご相談ください。

問合せ・申込先  
0800-800-0806(通話料無料)

旅行企画・実施

株式会社 出羽庄内地域デザイン  
〒991-0028 山形県鶴岡市山王町8-15

山形県知事登録旅行業第2168号